2017 年　小屋作業に参加して

20 期　松下 和隆

【日程】

① 2017 年春、5 月 13 日～5 月 15 日（2 泊 3 日）

② 2017 年秋、9 月 30 日～10 月 2 日（2 泊 3 日）

【参加者】

■　OB（18 名）

（13 期）大島良治、辰野隆義、吉本良治、吉田穂積、柴田茂樹、柴田訓子

（15 期）上馬康生、奥名正啓、坂尻忠秀、松縄宏

（16 期）北川隆次、中野淳一

（17 期）上田喜久雄

（19 期）栂典雅

（20 期）久冨象二、松下和隆

（21 期）栂睦美

（22 期）黒崎敏男

■　現役（7 名）

（59 期）山路遼太郎

（60 期）村居龍樹、梅北浩志諒

（61 期）井上皓介、亀谷英太、横町航平、内田大智

【１】ベルクハイムに集う

春はシャクナゲ、秋はアケビ。犀奥の自然は豊かで瑞々しく、昔も今も変わらずに僕らを癒してくれます。ここに誘われ、今年もワンゲル仲間が春と秋の２回、ベルクハイムに集いました。

犀川ダムまでの林道が閉鎖されて早や６年。特別な許可をもらわないとベルクハイムへ行けない状況が続いています。それはまるで「北方領土」へのお墓参りのようです。年２回、こうやってベルクハイムへ入れる機会は、ひょっとしたら貴重な体験となるのかもしれません。なんてことを思いながら、今回も小屋作業に参加しました。

参加メンバー（春の小屋作業、柴田氏撮影）

参加メンバー（秋の小屋作業、上馬氏撮影）

【２】アカシアの雨にうたれて～♪

このまま死んでしまいたい～♪、とは昔懐かしい西田佐知子のヒット曲ですが、ベルクハイムの傍らには枯れかけた大きなニセアカシアの木があります。永年の風雪に耐えかね、「このまま倒れてしまいたい～♪」と歌っているかのようでした。もしこの木が、ベルクハイムに向かって倒れてきたら大変なことになります。早急に対応（たぶん伐採）しないと、ある時ベルクハイムへ行ったら木に小屋がつぶされていたというような悲惨な光景を目にするかもしれません。小屋の補修作業としては、現在、ベルクハイムの構造補強（筋交い等）が有志の皆さんの手により進められていますが、これに加え新たな難題が浮上してきたようです。

ニセアカシアの木（左トイレの背後、上馬氏撮影）

【３】崩壊が進む…倉谷川沿いの道

いつも難儀する雨量計を過ぎた「へつり」の箇所は、（今回でもう６回目ですが）僕にとってはいつも憂鬱な場所です。へつりに吊るされた丸太の上をカニの横這いで進むのですが一瞬たりとも気が抜けません。丸太は水に濡れて黒光りしています。どう見てもこれは滑るでしょう…という箇所に足を置くのは勇気がいります。おのずと

ロープを握る手に力が入ります。そうかと思うと丸太自体が水没している箇所もあります。もはや濡れることを覚悟するしかない。観念して山靴もろとも水の中へ。じゅわ、じゅわ…と靴下が濡れるあの感触、皆さんもご存知の通りだと思います。ベルクハイムへ行くのに、こんな思いはしたくないですよね。

丸太の横這い（雨量計付近にて、柴田氏撮影）

このような箇所は一か所だけではなく、近年、川岸に沿って広がり始めてきました。上の写真の雨量計（右端）の向こう側も、実は侵食が進み今にも道が無くなりそうになってきています。ひょっとしたら次回の小屋作業では、もう無くなっているかもしれません。地元の人のご尽力により、丸太による補修が期待されますが、それは他力本願、どうなることか実際のところは分かりません。

崩壊が進む谷沿いの道…もはや風前の灯火

【4】OB チェーンソー隊

春の小屋作業では、新道の倒木を処理する部隊、その名も「OB チェーンソー隊」が活躍しました。高三郎へ機材を荷揚げする際、先陣隊は道を塞ぐ何本かの巨大な倒木に悩まされました。そこでベルクハイムへ無線で支援を要請しました。するとあっという間にこの応援隊が結成されたというわけです。無線でふたことみこと話す上馬さん（15期）。傍で見ていて思いました。やっぱりワンゲル仲間はいいなぁと。阿吽の呼吸というか、結束の強さとでもいうか…何かそういうものを感じました。

OB チェーンソー隊（バルクハイムにて、柴田氏撮影）

2 日後、先陣隊が高三郎から下山するときには、倒木は全て切り落とされていました。お陰様で、しゃがんだり乗り越えたりしないで快適に下山できました。感謝、感謝です。倒木の切口にふと目をやると、試行錯誤した跡、何度も何度も切りなおした痕跡が見受けられました。ベルクハイムにあったチェーンソーの歯は、ボロボロだったとのこと。本当に、お疲れさまでした。

切り落とされた倒木…グッドジョブ!!

【5】現役ボッカ隊

現役諸君には資材の荷揚げを担当してもらいました。新道の奥深い場所で作業を３日間継続して実施するため、テント、食料、水などの荷物運搬を手伝ってもらいました。みんな明るくて気さく。いい連中ばかりです。それに若いから、馬力がある。一人 30 キロぐらいの荷物を担ぎ、新道の急登もなんのその、グイグイと登っていきます。頼もしい限りです。

現役ボッカ隊。右から（3 年）村居、梅北、（2 年）井上、亀谷、横町くん（柴田氏撮影）

ボッカを終え、新道を 3 時間かけて下山してきた彼らを迎えたものは、「熊本スイカ」でした。OB からの思いがけない差し入れに大喜びの現役生たち。わ～い、すいかパーティーだ。山奥に歓声がこだまします。

すいかパーティー（ベルクハイムにて、久富氏撮影）

秋の小屋作業では更にもう一名、２年生の内田くんが参加してくれました。なんと彼は、「ワンゲル 60 周年記念 T シャツ」のモデル。T シャツ自体は現役生たちがデザインしたとのことです。来年 9 月の 60 周年記念式典が楽しみですね。

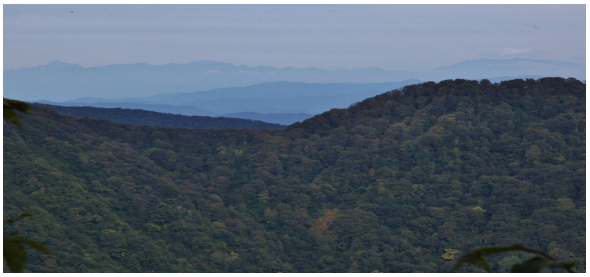
現役ボッカ隊。（2 年）内田くん…僕らが作った「ワンゲル 60 周年記念 T シャツ」（久富氏撮影）

【6】OB 草刈り機隊

新道整備の先陣を務めたのが、OB 草刈り機隊です。草刈り機 2 台を使って、新道上部の濃密なブッシュを刈りこみながら少しずつ前進していきました。といっても草刈り機 2 台を荷揚げするのは結構大変で、初日はテント場 C1（砺倉分岐の手前）まで行くのがやっとでした。初日はそこで現役生たちと一泊。本格的な作業を開始したのは 2 日目からでした。

OB 草刈り機隊（テント場 C1 にて、上馬氏撮影）

草刈り機の威力は絶大で、いったん作業を始めると、ギューン、ビシビシ、バシバシと、細い笹から太い灌木まで何でも切れます。この強力なツールのお陰で新道整備もかなり進みました。春と秋、2 回の小屋作業を経ることにより、当面の目標としていた旧道分岐点をクリアし、最終的には高三郎ピーク（1420m）の直前、標高 1320m まで到達することができました。あと残すところわずか。距離にして 300m ぐらいでしょうか。



標高 1320m の眺望…剱岳、立山、薬師岳が見える

濃密なブッシュ帯を刈る上田さん…旧道分岐(左上)、高三郎ピーク（右上）が見えてきた（上馬氏撮影）

新道整備の最高到達点（1320m)…指さす黒崎さん

高三郎のピーク付近で夕方まで作業していると、明るいうちにベルクハイムへ下山することはさすがに不可能です。秋の小屋作業では分岐下の道上に第２テント場を切り開き、そこで一泊しました。その夜は月がぽっかりと高三郎の上へ。月見で一杯としゃれこみました。

高三郎と月（テント場C2にて、上馬氏撮影）

【７】感想と今後について

（１）ニセアカシアの伐採

冒頭で述べたニセアカシアの木。ベルクハイムへ倒れかかる前に撤去するのが無難かと思われます。OBに木こりさんは…いませんよね。

（２）水没難所の迂回路

倉谷川沿いの道は、浸食がどんどん進んでいます。迂回路をそろそろ本気で整備する時期が来ているようです。ベルクハイムの横（トイレ側）からコムラ谷へ抜ける「高巻きの道」を整備し始めました。まだ不完全ですが、迂回路があれば安心です。急勾配な部分をジグザグにして緩やかにするなど、改善を施せばもっと歩きやすくなると思われます。栂さん、黒崎さん、お疲れさまです。

高巻き道の入口（ベルクハイム～コムラ谷を繋ぐ）

（３）新道整備…目指せ、高三郎ピーク！

来年５月には、いよいよ高三郎ピークに到達かと思われます。余すところ300mほどのブッシュ。人海戦術で一気に突破しピークでお祝い。皆で感動を分かち合えれば最高です。その頃にはきっとシャクナゲも満開。僕らを祝福してくれることでしょう。

シャクナゲ満開(5月の新道、クラコシ尾根にて)